

被災地の方々と思いを共有し、支援の輪を広げる積極的な活動を!

被災地の廃棄物選別処理施設では、まず大小危険物を選別、そして、様々な工程を通過後、最後は15名くらいの職員さんが細かく手作業で選別。放射能の測定については数時間おきに、

- ① 選別エリアでの空間線量率
- ② スtockヤードの遮蔽線量率
- ③ コンテナ積み込み後の空間線量率

を測定、そして数値をクリアしたものを東京都へ

搬出されます。(今まで数値をクリアしなかったものはないとのこと)

ガレキの京都市受け入れについては、2月議会の最終本会議で「安全であると判断されたものは、京都市として受け入れるべきとする。」と、決議を可決しました。しかし、京都市に対して、受け入れ中止の要望は今もなお続いています。

私自身、3人の子どもをもつ親として、ガレキの受け入れによる将来への不安から強く反対されている方々のお気持ちも十分に理解できます。しかし、被災者の方からの「一日も早い復興の為には、一日も早いガレキ処理をお願いしたい」というお声。また、現地で慎重かつ丁寧に選別されている施設を自分自身の目で見て、市が安全と判断したガレキについては、受け入れるべきだと思いました。

これからも現場の視察、対話を通じて、被災地・被災者が抱える課題を共有し、京都市にも働きかけながら支援の輪を広げる活動を積極的に取り組んで参ります。



安心・安全な生活を送るために、今すぐ取り組めることから始めます!

祇園の事故に続き、亀岡市で集団登校中の児童等の列に暴走車が突っ込み、小学生を含む3人が死亡、7人が負傷された痛ましい事故が発生しました。

この事故を機に、京都市においても、今後同じような事故が起こらないよう、5月に改めて通学路の安全点検を行いました。その結果214箇所安全上の課題があると公表、そして府警との協議を経て対象区域を拡大し、現在は市建設局把握の3045箇所、市教育委員会把握の943箇所を行政区ごとに検討して、白線の引き直し、コーンの設置など、簡易な工事から順に進めているところであります。

また、5月議会では、「無免許運転を許さない社会づくりが、急務である」として、道交法、刑法における無免許運転の厳罰化をはじめ、国に対し『無免許運転の根絶のための法改正を求める意見書』を提出しました。再びこのような痛ましい事故が起こらないよう、悲劇が繰り返されることがないよう、あるゆる角度から検証し、引き続き、「安心・安全なまちづくり」に努めてまいります。

自民党

京都市会議員

吉井あきら